

はじめまして“アンガージュマン・よこすか”です



お祭りで焼きそばを売る

わあ！おいしそう

「いらっしゃい！」タオルを頭に巻き真っ赤に日焼けした顔で焼きそばを作る小柳さん。横では大きなかき氷器をシャカシャカ回す音がする。ここは海の家かと錯覚してしまう。よく見ると入り口の敷物にはアンガージュマンの文字が入っている。中に入つてみると、そこにはとてつもなく大きな机がひとつ。その周りで子どもたちが遊んでいた。ここがフリースペースだ。いつもは引きこもりや不登校で悩む生徒や親の話し合いの場所になる。横には畳が敷かれ、正面にパソコンが並ぶ。畳の上では生後4週間の赤ちゃんが眠り、パソコンでカードゲームをする中学生がいる。奥では吉本さんや山川さんたちスタッフがクッキーを詰めをしながらみんなを温かく見守っていた。

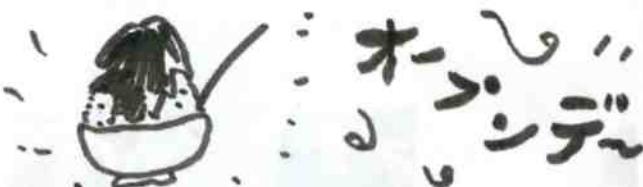
今日はお祭り。アンガージュマンのスタッフやそこに通学する子どもたち、またその親やおじいちゃん、おばあちゃん、アンガージュマン結成以前に世話をした子どもがその子どもを連れて遊びに来たりしていた。もう誰がスタッフなのか分からぬ。とにかく賑やかで和やかで、ほほえましい光景だった。時間を忘れさせてくれる、不思議な空間だ。

アンガージュマンって何？

「アンガージュマン・よこすか」。今年4月に立ち上げたばかりの若い、勢いのあるグループだ。その活動は多岐に渡る。引きこもりや不登校で悩む生徒や親の支援、学習支援、まだまだ可能性は広がる。子ども、親、若者が安心して集え、話し合える場所がどうしても欲しい。迷い、泣き、笑い、怒り、悲しみながら自分らしい生き方を探せたら。消費社会のひずみが生んでしまった傷つきやすい子どもたちを支援したい気持ちから『アンガージュマン=社会参加』となった。

《感想のコラム》

スタッフは事務局・学習支援・カウンセリングと分かれており、各人はその道の経験が豊富。事務局長はスペースゆうゆうを立ち上げた滝田衛教頭先生だ。その流れでよくこれだけ優秀なスタッフが集まつたものだ。この特色は、当事者の親たちが話し合えることだ。悩んでいるのは自分だけではない。一人で背負い込めるものではないと気づき、勇気づけられる場は、今まであったどうか。また、不登校や友達づきあいが苦手な子どもたちは一般の塾に通えないことが多い。でも勉強はしたい。そんな子どもに学習の機会を与えてくれる。行政では埋められない隙間を埋めてくれている。



団体名	NPO法人アンガージュマン・よこすか
連絡先	吉本 照子 (Tel046-801-7881)
取材日	7月25日 (日)
開催場所	アンガージュマン事務所 (上町2-4)
リポーター	尾上 晴美

